

平成25年第1回定例会（2月議会）

農林水産委員会提出資料

（所管事項関係）

平成25年2月15日

農 林 水 産 部

# 目 次

- 1 農用地の土壌汚染防止対策に関する調査結果について [水田総合利用課] ----- 1
- 2 雪害の状況等について [農林水産部] ----- (当日配布)

# 1 農用地の土壤汚染防止対策に関する調査結果について

水田総合利用課

## 1 調査結果の概要

県及び出荷団体（全農県本部、J A、県主食集荷組合）では、カドミウム汚染米の流通を防止するため、ロット調査\*を実施している。

この結果、県が買入処理する0.40ppm以上の平成24年産の汚染米は370 t 確認された。

7月の降水量が平年並みから平年以上で推移したことや、農家の発生防止対策（湛水管理）の取組により、汚染米は昨年度を大幅に下回った。

※ロット調査…生産者毎、品種毎、出荷日毎にまとめた数量（ロット）を単位としたカドミウム濃度分析

### ○ カドミウム濃度調査の結果（平成25年2月14日現在）

調査年度	調査総数		0.40ppm以上		左のうち1.0ppm以上	
	ロット数	数量(t)	ロット数	数量(t)	ロット数	数量(t)
H 2 4	44,629	101,591	208	370		
H 2 3	44,064	86,232	688	1,128		
H 2 2	39,260	84,988	188	351	-	-
H 2 1	38,752	88,613	181	343	1	1
H 2 0	36,009	85,271	151	335	3	3
H 1 9	32,829	80,430	996	2,105	19	26

## 2 今後の対策

客土等の恒久対策や湛水管理による発生防止対策に引き続き取り組むとともに、汚染米の買入処理により、安全・安心な秋田米の生産・流通を確保する。

- (1) 細密調査による対策地域の確定と客土等の早期実施
- (2) 湛水管理等の徹底と濃度分析による安全・安心な流通の確保
- (3) 本県独自の買入基準濃度（0.40ppm以上）に基づく汚染米の全量買入・処理
- (4) 植物浄化や化学洗浄など新たな対策技術の推進
- (5) カドミウム超低吸収水稻品種の早期育成

## 2 雪害の状況等について

農林水産部

### 1 今冬の積雪状況

- (1) 昨年未から断続的に降雪が続き、県内13観測地点全てにおいて平年以上の積雪を観測するなど、昨冬に続く大雪となった。
- (2) 特に秋田（秋田市）の観測地点では、1月12日に最深積雪68cmを記録し、昨年の48cmを20cm上回った。その後も1月末日まで平年を大幅に超える50～60cm台の積雪深が続いた。

### 2 被害の状況

- (1) 被害額 35,737千円（2月18日現在）

- (2) 被害内容

- ア 平年より積雪が多かったため、晴れ間を見て早め早めの除排雪が行われていたが、低温が続いたことから積もった雪が解けにくい状態が続き、パイプハウス等の損壊被害が発生した。
- イ 被害額のうち、農業施設被害がほとんどを占め、34,852千円となっている。
- ウ 農作物では、パイプハウスの損壊により、栽培中の輪ギクやハウレンソウ等に被害があった。
- エ 果樹では、こまめに樹園地内の除雪が行われており、一部で枝折れが見られるものの、樹体等に大きな被害は見られない。

#### 【被害状況】

区分	被害額(千円)	数量	内容
農作物	885	0.12ha	輪ギク(大仙市)、ハウレンソウ(能代市・秋田市・男鹿市・大仙市・仙北市)、セリ(湯沢市)、ネギ(美郷町)
樹体	調査中	0.16ha	リンゴ・ナシ(秋田市)
農業施設	34,852	80棟	パイプハウス79棟 大館市(2)、北秋田市(3)、能代市(10)、三種町(2)、秋田市(7)、男鹿市(3)、八郎潟町(1)、由利本荘市(5)、大仙市(24)、仙北市(6)、美郷町(4)、横手市(8)、湯沢市(4) 鉄骨ハウス1棟 湯沢市(1)[原木しいたけ]
計	35,737		

### 3 今後の対応

- (1) 引き続き、施設被害と作業事故の防止の指導を徹底するとともに、消雪の遅れによって春作業が遅延しないよう、融雪の促進及び野菜・花きの育苗等の栽培管理について指導していく。
- (2) 被害を受けた農業者が、再生産に向けた意欲を失うことのないよう、市町村や農業団体等と連携のうえ、農業共済制度や制度資金の活用など、復旧に向けた個別相談にきめ細かく対応していく。